



編集長(ダン シロウ)

■創刊以来初めて、明らかに発行が遅れました。待つて下さっていた方にお詫びします。

一年がかりで準備してきたNYマンガ展を三月五日～十一日に無事、終了しました。この為のNY滞在が十日間在り、こちらの作業日程がずれ込んだのです。

見知らぬ土地で、初めての方々に「木陰の物語」を見ていただく経験をしました。正直、疲れましたが、それはこの展覧会期間のことだけではなく、一年かけて準備してきた疲労だったとおもいます。

やりたいと思うことが出来る幸せはありますが、余りあれこれやりたいと思えずぎると、疲れてしまうことも、今頃になって学びました。

今年は少しだけ控えてと思うのですが、予定表を見ると、すでに空白がない状況です。

■連載ばかりのマガジンですので、執筆者に様々なことが起こります。今回は病気のため休載の原稿が二本あります。ひとまず終了の方もありますし、休載の方も、新たに連載開始の方もあります。人の世とはこういうものだなと改めて思います。

そこそそ長く生きていますので、馴染みの方々の訃報に触れることも多くなりました。

高校生時代から馴染んできた桂米朝さんが亡くなりました。翌日、児童文学者・今江祥智さんの訃報に触れました。そして同時に、業界人森俊夫さんの訃報も聞きました。

何処かでご一緒したことがあったり、楽しませていただいたお仕事のある方々です。多少の遅い、早いはあるながらも順番だとは思っているので、それまでに出来ることを丁寧にとりて今日も生きています。

編集員(チバ アキオ)

大野睦さんの連載が第 18 章で一区切りとなりました。竹馬の友がこうして数年にわたり、今していること、

これまでしてきたことを同じ場所で広く伝えることができたのは本当にうれしいことでした。千葉と大野の小学校 5 年生の時の担任の石原先生、対人援助学マガジン連載『幼稚園の現場から』鶴谷圭一と座談会をしたときには、東日本大震災の支援に大野さんが被災地に入っていて、その帰りに車で会場に来てくれました。被災地から関西まで！そう私たちは阪神大震災も経験した世代。そうした震災経験も踏まえて、ずっと自然と向き合っている大野さん。洋上であったり、台風による停電であったり、世界、全国での活躍によるスケジュールもあつたり…そんな日々の中、4 年間！原稿を送ってくれて感謝です。これからの引き続きのご活躍を応援しております！連載オツカレサマ！

大野さんの連載はこちらです！屋久島をとおして、様々なことを私たちに問いかけています。

「やくしまに暮らして」

大野 睦 (ネイティブビジョン)

<http://www.native-vision.com/>

[第 1 章 なぜ屋久島なのか](#)

[第 2 章 特別か個別か](#)

[第 3 章 離島の暮らし](#)

[第 4 章 屋久島の祭り](#)

[第 5 章 番外編](#)

[座談会 障害のある友達と過ごすとは？](#)

[第 6 章 世界遺産登録後の歩み](#)

[第 7 章 ウミガメのこと](#)

[第 8 章 暗闇が教えてくれること](#)

[第 9 章 ライフライン](#)

[第 10 章 冬の屋久島](#)

[第 11 章 講演の仕事](#)

[第 12 章 記録と記憶](#)

[第 13 章 子どもの感性](#)

[第 14 章 青年](#)

[第 15 章 スポーツと観光](#)

[第 16 章 由来](#)

[第 17 章 天災と人災](#)

[第 18 章 世界遺産と観光](#)

編集員 オオタニタカシ

2月下旬、3月に編集長と副編集長がニューヨークに行くことを聞いた。その時ふと『編集会議はどうなるんだらう?』と疑問を持った。普段は締切月の25日で原稿をもらい、翌月上旬に編集会議をし、同月15日にupするという手順になっていたからです。『編集会議が延期か?前倒しか?』あるいは『まさかニューヨークとネット会議か?』と想像を膨らませていましたが、編集長からの連絡は発行日自体の延期でした。考えてみれば他に手はないように思われましたが、その発想がなかった自分に、ある意味驚きます。

編集長、副編集長がニューヨークにいる間、私自身は非常に個人的なことに取り組んでいました。執筆者近況でも書いたように4月から大学院に入学することにしたのでその準備と、並行して引っ越しまで決断してしまい、各種の手続きと荷造りに忙殺されて過ぎました。編集長たちのグローバルな活動からすると何ともこじんまりとしていますが、これが自分らしくも感じています。色々な場、色々な立ち位置、色々なスタンスの執筆者がいるマガジンですので、編集員も色々なよいのだろう、と思っています。

■ご意見・ご感想■

マガジンに対するご意見ご感想は
danufufu@osk.3web.ne.jp

マガジン編集部

604-0933 京都市中京区山本町438
ランプラス二条御幸町402 仕事場D・A・N

対人援助学マガジン

通巻20号

第5巻 第四号

2015年3月15日発行

(のはずが事情で遅れました)

<http://humanservices.jp/>

第21号は2015年6月15日
発刊の予定です。

原稿締切2015年5月25日!

新規連載者を募っています。

編集長まで執筆企画をお知らせ下さい。

対人援助学会事務局

〒603-5877 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学大学院応用人間科学研究科内
TEL:075-465-8375 FAX:075-465-8364

対人援助学会事務担当

入会・退会・変更届

〒540-0021 大阪市中央区大手通2-4-1
リファレンス内
TEL/FAX 学会専用:06-6910-0103

表紙の言葉

マンガ「故郷」を巻物にした。全長7メートルというとんでもないものになったが、そのラストシーンに新しく一枚、イラストを足した。それは、この話の中に登場する、故郷の夏空にそびえる樹木だ。この樹が紅葉し、やがて葉が落ちる季節を描いた。

家族にも季節は巡る。若々しい親たちがいて、幼子が駆け回る春から初夏。やがて実りの季節を迎え、そして落葉の時期を迎える。自然の摂理であるから、それをどうこう言うことはない。どの季節も美しい。そして間違いなく繰り返されることが信じられれば、季節の移り変わりも、世代の交代も幸福である。そのためにも、様々な角度からの平和実行者になりたい。

2015/3/25